

春の清掃デー

# 市民ら一斉に環境美化

## 大館 各地でクリーンアップ

大館市内で21日、一斉クリーンアップが行われた。早朝から多くの住民がトンクを手には、沿道や河川敷でごみを拾い集め、地域環境の美化に努めた。

同市は毎年、4月第3日曜日  
を「春の清掃デー」に設定。  
各地区のごみ拾いや側溝の土  
砂上げなど、清掃活動の実施

を呼びかけている。

長木川沿いでは、大館青年会議所（斎藤駿也理事長）が主催する第52回「大館クリーンアップ大作戦」が展開された。地元企業や団体、中高生や短大生のほか、市教育研究所の子どもハローワークに申

し込んだ小学生ら200人超が参集。下町橋から西大橋付近までの両岸に分かれ、午前6時ごろから1時間程度、ごみ袋やごみ拾い用トンクを手にクリーンアップを行った。ペットボトルや空き缶、たばこの吸い殻といったポイ捨

てされたごみのほか、放置された雪かきスコップやバドミントンラケットなども見つかった。初めて参加した三浦梨乃子さん（長木小6年）、佐藤祐希さん（同）は「いろいろなごみが落ちていたけど、想像していたより少なかった。もっとごみを捨てないという意識を高めて、きれいな町になってほしい」と話した。

ごみを拾い集める市民（長木川河川敷）



米代川では第32回「米代川クリーンアップ作戦」（実行委員会主催、伊藤久義委員長）が行われた。流域の町内会、市漁業協同組合、猟友会、消防団などから約120人が参加し、中山―山田渡間の川沿いでごみ拾いに臨んだ。ペットボトルや食品トレイといった家庭ごみをはじめ、タイヤなどの不法投棄もあり、終了後にはごみ袋の山ができた。伊藤委員長は「年々ごみは少なくなっているが、見えづらい場所にまとめて捨てていく人がいる様子。これからもきれいな環境のため整備を続けたい」と述べた。